

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】令和1年9月5日(2019.9.5)

【公表番号】特表2018-525360(P2018-525360A)

【公表日】平成30年9月6日(2018.9.6)

【年通号数】公開・登録公報2018-034

【出願番号】特願2018-503170(P2018-503170)

【国際特許分類】

A 6 1 K	36/48	(2006.01)
A 6 1 L	27/22	(2006.01)
A 6 1 L	15/26	(2006.01)
A 6 1 L	27/18	(2006.01)
A 6 1 L	27/52	(2006.01)
A 6 1 L	27/54	(2006.01)
A 6 1 L	15/44	(2006.01)
A 6 1 K	38/16	(2006.01)
A 6 1 K	9/14	(2006.01)
A 6 1 K	9/06	(2006.01)
A 6 1 K	9/08	(2006.01)
A 6 1 K	9/70	(2006.01)
A 6 1 K	9/12	(2006.01)
A 6 1 K	47/34	(2017.01)
A 6 1 K	47/42	(2017.01)
A 6 1 K	47/36	(2006.01)
A 6 1 K	47/32	(2006.01)
A 6 1 P	17/02	(2006.01)
C 1 2 M	3/00	(2006.01)
A 6 1 L	15/32	(2006.01)
C 0 7 K	4/10	(2006.01)

【 F I 】

A 6 1 K	36/48	Z N A
A 6 1 L	27/22	
A 6 1 L	15/26	1 0 0
A 6 1 L	27/18	
A 6 1 L	27/52	
A 6 1 L	27/54	
A 6 1 L	15/44	1 0 0
A 6 1 K	38/16	
A 6 1 K	9/14	
A 6 1 K	9/06	
A 6 1 K	9/08	
A 6 1 K	9/70	
A 6 1 K	9/12	
A 6 1 K	47/34	
A 6 1 K	47/42	
A 6 1 K	47/36	
A 6 1 K	47/32	
A 6 1 P	17/02	
C 1 2 M	3/00	A

A 6 1 L 15/32 1 0 0  
C 0 7 K 4/10

【手続補正書】

【提出日】令和1年7月19日(2019.7.19)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

組成物が、大豆タンパク質単離物(SPI)の生物活性ペプチド成分を含む、創傷治癒及び組織再生を誘導するための組成物。

【請求項2】

溶出の直線勾配(45分間にわたる0~80%アセトニトリル(ACN))を伴う、C18を使用した逆相高圧液体クロマトグラフィー(RP-HPLC)を使用してWSsoy分離の間に溶出されるタンパク質画分5を含み、画分5が、約25~35分間の保持時間及び約17.9mVのゼータ電位を有する、請求項1記載の組成物。

【請求項3】

溶出の直線勾配(45分間にわたる0~80%アセトニトリル(ACN))を伴う、C18を使用した逆相高圧液体クロマトグラフィー(RP-HPLC)を使用してWSsoy分離の間に溶出されるタンパク質画分9を含み、画分9が、約35~40分間の保持時間及び約34.2mVのゼータ電位を有し、LDVモチーフを有する コングリシニン又はそのフラグメントを含む、請求項1記載の組成物。

【請求項4】

組成物が、水溶性大豆タンパク質単離物(WSoy)を含む、請求項1記載の組成物。

【請求項5】

請求項1記載の組成物を被験体の処置部位に投与することを含む、それを必要とする被験体において創傷治癒及び組織再生を促進するための方法。

【請求項6】

足場が、請求項1記載の組成物を含む、創傷治癒及び組織再生を誘導するための足場。

【請求項7】

溶出の直線勾配(45分間にわたる0~80%アセトニトリル(ACN))を伴う、C18を使用した逆相高圧液体クロマトグラフィー(RP-HPLC)を使用してWSsoy分離の間に溶出されるタンパク質画分5を含み、画分5が約25~35分間の保持時間を有し、そして約17.9mVのゼータ電位を有する、請求項6記載の足場。

【請求項8】

溶出の直線勾配(45分間にわたる0~80%アセトニトリル(ACN))を伴う、C18を使用した逆相高圧液体クロマトグラフィー(RP-HPLC)を使用してWSsoy分離の間に溶出されるタンパク質画分9を含み、画分9が約35~40分間の保持時間及び約34.2mVのゼータ電位を有し、そしてLDVモチーフを有する コングリシニン又はそのフラグメントを含む、請求項6記載の足場。

【請求項9】

足場が、SPIの生物活性ペプチド成分を含む電気処理された繊維、合成ポリマーを含む電気処理された繊維、91インテグリンのリガンドとして作用する画分9を含む電気処理された繊維、可溶性形態の画分5、ここで、画分5が、薬物送達担体内にロードされ、SPIの生物活性ペプチド成分を含むヒドロゲル、及びゲニピンで架橋されたゼラチンを含むヒドロゲルからなる群より選択される少なくとも1つを含む、請求項6記載の足

場。

【請求項 10】

合成ポリマーが、ポリ(イブシロン-カプロラクトン)(PCL)、ポリ(乳酸)(PLA)、ポリ(グリコール酸)(PGA)、コポリマーポリ(ラクチド-コ-グリコリド)(PLGA)、ポリアニリン、ポリ(エチレンオキシド)(PEO)、及びそれらの任意の組み合わせからなる群より選択される、請求項9記載の足場。

【請求項 11】

足場が、水溶性大豆タンパク質単離物(WSSoy)を含む、創傷治癒及び組織再生を誘導するための足場。

【請求項 12】

足場が、WSSoyを含む電気処理された繊維、合成ポリマーを含む電気処理された繊維、及びWSSoyを含むヒドロゲルからなる群より選択される少なくとも一つを含む、請求項11記載の足場。

【請求項 13】

合成ポリマーが、ポリ(イブシロン-カプロラクトン)(PCL)、ポリ(乳酸)(PLA)、ポリ(グリコール酸)(PGA)、コポリマーポリ(ラクチド-コ-グリコリド)(PLGA)、ポリアニリン、ポリ(エチレンオキシド)(PEO)、及びそれらの任意の組み合わせからなる群より選択される、請求項12記載の足場。

【請求項 14】

請求項6記載の足場を被験体の処置部位に投与することを含む、それを必要とする被験体において創傷治癒及び組織再生を促進する方法。

【請求項 15】

精製された水溶性大豆タンパク質単離物(WSSoy)を含む有効量の組成物を湿潤創傷に適用する工程を含み、WSSoyが、湿潤創傷中の水分との接触時に自己組織化して半液体マトリックスとなる、湿潤創傷を処置する方法。

【請求項 16】

有効量が創傷1cm<sup>2</sup>あたり1~200mgの乾燥WSSoyである、請求項15記載の方法。

【請求項 17】

有効量が、創傷1cm<sup>2</sup>あたり(1mLの液体担体あたり1~200mgの間の濃度で)液体担体に0.1~1mLのWSSoyである、請求項15記載の方法。

【請求項 18】

適用方法が、創傷上への直接電気処理によるものである、請求項17記載の方法。

【請求項 19】

組成物が、麻酔剤、抗アレルギー剤、抗ヒスタミン剤、鎮痒剤、筋弛緩剤、鎮痛剤、解熱剤、ビタミン、抗菌剤、防腐剤、消毒剤、殺菌剤、外部寄生生物駆除剤、抗寄生虫剤、アルカロイド、塩、イオン、抗炎症剤、創傷治癒剤、植物抽出物、成長因子、ポリカーボネート、細胞外マトリックス(ECM)構成成分、皮膚軟化剤、抗菌剤、抗ウイルス剤、精神安定剤、鎮咳剤、ナノ粒子、及びそれらの組み合わせからなる群より選択される少なくとも一つの活性薬剤をさらに含む、請求項15記載の方法。

【請求項 20】

組成物が、ゼラチン、マトリゲル、ケラチン、コラーゲン、エラスチン、フィブリン、ヒアルロン酸、グリコサミノグリカン、プロテオグリカン、フィブロネクチン、ビトロネクチン、ラミニン、キトサン、ポリウレタン、ポリシロキサン又はシリコーン、ポリエチレン、ポリビニルピロリドン、ポリ(2-ヒドロキシエチルメタクリレート)、ポリ(N-ビニルピロリドン)、ポリメチルメタクリレート、ポリビニルアルコール、ポリアクリル酸、ポリアクリルアミド、ポリエチレン-コ-酢酸ビニル、ポリエチレングリコール、ポリエチレンオキシド、ポリメタクリル酸、ポリラクチド(PLA)、ポリグリコリド(PGA)、ポリ(乳酸-コ-グリコール酸)(PLGA)、ポリスチレン、ポリ無水物、ポリオルトエステル、ポリカーボネート、及びそれらの組み合わせからなる群より選択さ

れる成分をさらに含む、請求項 1 5 記載の 方法。